

# Eureka XI

六年制通信 No.16 令和5年9月1日(金)号

## 難しい本？

夏休みの終わりには必ずツクツクボウシが鳴きますね。猛暑になっても変わることなく今年も鳴いています。嫌いやわ、学校の始まりを告げるあの声。

しかし異常に暑い夏でしたね、と言うと夏が終わったみたいですが実際は今まだ継続中で、残暑という言い方がためられるほど本格的な夏の暑さが続いているだけではないか、そんな気がします。残暑という言葉はなくなるかもね。20年以上前のドラマに「信じられないよ、今日は30℃になるんだって、ありえないよね」と主人公の男女が驚いているシーンがあったように思いますが、ということは今から20年後には現在の気候を「昔懐かしいまだそんなに暑くなかった頃」と表現されるのでしょうか。

さて諸君、元気に過ごしていましたか。たくさん本は読めましたか。受験生諸君は計画通りの勉強ができたでしょうか。クラブ活動では高校の全国優勝、中学も全国大会に出場と朗報が届いています。暑い中、よく頑張りました。素晴らしい成果です。しかし、屋外で行うクラブ活動も体育の授業も、今後は気温によって急な中止になる場合が出てくるでしょうね、これだけ暑いと。そろそろ夏休みの在り方と言いますか過ごし方にも新しい観点が必要になっているのだと思います。私が教員になったころ、30年以上前ですが、学校の施設にクーラーなどありません。ワイシャツを着替えて授業をした記憶があります。テスト用紙が手の汗で湿って破れたり、今ではちょっと信じられない光景もありました。それでも今のような猛暑ではなかったから耐えられたのだと思います。私が中高生の頃は、クラブ活動中には水を飲むなどという指導を受けました。先生方も飲まなかった。しかし、あの頃が今のような気温だったらそんなことは言われなかっただろうと思います。ですから、過去に縛られることなく新しい夏休みの過ごし方を考えないといけませんね。諸君も考えてみて下さい。

話を変えましょう。テレビかラジオか忘れましたが、難しい本が読めないのは頭が悪いからだと思っている若者(大人もらしい)が多いという話を聞きました。思わず笑ってしまいましたが、なるほどそう考えるものかもしれませんね。確かに、私も若い時そう考えていたように思います。恩師が面白いとおっしゃる本が私には一向に面白くなかった時など、先生と私では見えている景色が違うのだと落ち込んだ記憶もありますし。それでも何度か読んでいるうちに面白くなっていった経験もあります。読む側の関心とか、ピンとこないしょうが、年齢の問題もあります。若い時には何を言っているのかわからない、でも歳をとれば誰でもわかる、そんなことが世の中にはあります。ですから難しいと感じるのは単純に自分の勉強不足だと、あまり深刻に考える必要は

ありません。さらに、書いてある日本語、特に翻訳の、哲学書の翻訳の日本語が、どう考えてもわざと難しく書いているとしか思えないことがあります。筒井康隆の講演を本にした『誰にもわかるハイデガー』で、筒井自身が言っている部分を紹介します。声に出して読んでみて下さい。何のことかわかったら、私に教えて下さいね。

元の本はだいたいどういう文章で書いてあるか、興味がおありかもしれませんのでちょっと読んでみます。

「現存在は、他の存在者のあいだで出来るにすぎない一つの存在者ではない。現存在が存在的に際立っているのは、むしろ、この存在者にはおのれの存在においてこの存在自身へとかかわりゆくということが問題であることによってなのである。だが、そうだとすれば、現存在のそうした存在機構には、現存在がおのれの存在においてこの存在へと態度をとる或る存在関係を持っているということ、このことが属している。しかしこのことは、これはこれで、現存在が、なんらかの仕方で表立っておのれの存在においておのれを了解していることにほかならない。この存在者に固有なのは、おのれの存在とともに、またおのれの存在をつうじて、この存在がおのれ自身に開示されているということである」。お分かりになったと思いますけど(笑)。

文中、「出来る」は「しゅったいする」と発音します。さて、いかがでしたか。これを一読して理解できる方がおかしいですよ。私もさっぱりわかりません。ですから、こういう文章を、読めなければ頭が悪いのだなどと考えるはいけません。ハイデガーは二十世紀最大の哲学者と言われています。だからこそ彼の文章を理解するには特別な訓練を要する、そう考えることが大切です。実際に書かれた原語の綿密な分析と理解も必要になります。哲学書を読む人は、一面ではその書かれた言語に精通した人です。専門の勉強に膨大な時間がかかるのです。諸君は今、楽しく読める物語をたくさん読むことを心掛ける方が、精神衛生上もいいと思いますよ。

### 今週のおすすめ

・乾 ルカ 『メグル』 (創元推理文庫)

私はこの人の『コイコワレ』を読んだことがあります。詳細は省略しますが「螺旋プロジェクト」(海族 vs 山族の物語。面白いから調べて読んでごらん。第1弾は計八冊だったかな)の一環で出版された本で、薬丸岳の『蒼色の大地』同様楽しく読みました。それ以来なのですが、今回は連作短編集、全部で5作。いつも思うのですが、作家の想像力というのは本当にすごいですね。特に最初の「ヒカレル」なんて、日本のどこかで本当に信じられているような、そんな風俗が今もあると言われても納得してしまうような物語です。オチは、実は想像通りだったのですが、本当のオチまでは気がつかなかったなあ。辻村深月さんの『ツナグ』を読んだ時のような読後感がありました。

この夏は、夏休み前から人生初めてというくらい体調を崩してしまい、ほとんど本も読めなかったのですが、それでも何冊か読んだ中で君たちもきっと面白く思うだろうと思うのはこの本です。図書館に入れておきますね。

BGMは Mr. Children の 君がいた夏でした…。